

平成29年度 北海道音更高等学校 学校評価学校関係者 評価書

学校関係者評価委員	学校評議員
-----------	-------

1 本年度の学校経営方針・重点事項など

1 学校経営方針	「生徒・保護者・地域の期待に応える活力ある学校の創造を目指す」
(1)	協働体制の確立により、教育活動の改善・充実に努める。
(2)	計画的な校内研修により、指導力の向上に努める。
(3)	普通科単位制完成年度を迎え、趣旨の理解・周知を図るとともに検証する。
2 重点推進事項	「一人ひとりの自己実現を目指して」
(1)	学ぶ意欲や基礎的な知識・技能、思考力・判断力など、学力の向上を目指し、分かる授業を追求する。
(2)	自己指導能力や倫理観・規範意識の向上を目指し、教職員と生徒相互の信頼関係を構築する。
(3)	進路希望の実現や望ましい勤労観・職業観の醸成を目指し、個性や能力に応じてきめ細かに対応する。
(4)	基本的な生活習慣を確立はもとより、他を思いやる心など、豊かな心や健やかな体の育成を目指し、生徒自らの心身を鍛える。

2 自己評価結果

A(4.0～3.5)：十分 B(3.5～2.4)：概ね十分 C(2.4～1.5)：やや不十分 D(1.4～1.0)：不十分

領域	評価項目	評 価 の 観 点	自 己 評 価 ・ 改 善 の 方 策			評価委員 評価	
			達成 状況	取組の 適切さ	改善の方策	達成 状況	取組の 適切さ
経営・管理	運営組織	1 校務分掌組織は有効適切か	3.2	B	・分掌の再編など組織運営の工夫を通して、更に業務の効率化を図る。 ・複数体制で業務を行うことでOJTを機能させ、教職員の資質・能力の向上を図る。 ・定期的な研修の実施などにより職員の服務規律の徹底を図る。 ・校長だよりの発行やHPの定期更新等により、外部への情報提供を積極的に行う。 ・懇談会の設定や行事への参加に積極的に努め、家庭、地域との連携を深める。 ・地域のニーズや生徒の進路動向に対応するとともに新学習指導要領を見据えた教育課程の検討を行う。	3.6	A
		2 分掌組織機能の適切さ	3.1	B			
		3 所属分掌の前評価にもとづいた実践	3.1	B			
		4 校務の情報化の進展	3.1	B			
		5 職員会議の円滑かつ有効実施	3.3	B			
	教 職 員	6 職場環境の望ましい人間関係	3.2	B			
		7 OJT(On-the-Job Training)の機能	2.9	B			
	連 携	8 保護者への情報提供	3.1	B			
		9 保護者の理解・協力	3.0	B			
		10 地域関係機関との連携	3.1	B			
	施設設備	11 教職員の電話対応、接遇マナー	3.2	B			
		12 施設設備の維持管理や補充・補修	3.1	B			
		13 責任保守点検、施錠、整理整頓	3.0	B			
	教育課程	14 防犯対策の整備、周知	3.0	B			
		15 編成方針・手順に対する共通理解	3.0	B			
		16 生徒、保護者、地域のニーズへの配慮	2.8	B			
(学校関係者) 評価委員の意見		・単位制の魅力を更に地域にアピールする必要がある。 ・地域との活動がより積極的に行えるような柔軟な授業の組み方を検討し、特色ある学校づくりを更にすすめて欲しい。 ・バスの整備など生徒達が通学しやすい 環境づくりが必要である。					
学習指導	年間指導計画	17 指導計画の具体化	3.0	B	・授業評価アンケートの結果を分析し、授業改善を行うことで「わかる授業づくり」をすすめる。 ・教科・学年による課題学習の計画化、家庭学習推進活動を実施し、生徒が主体的に学ぶ環境づくりを行う。 ・北海道高等学校学力テスト等の活用による学力実態把握を活かし、どこを伸ばし何を改善すべきかの明確化に努める。 ・学習意欲の向上を促し、説明責任を果たす学習評価方法の研究を更に進める。	3.4	B
	教材	18 教材の精選	3.1	B			
	教科指導	19 生徒の実態に即した指導	3.1	B			
		20 十分な準備にもとづいた授業	3.0	B			
	評価	21 評価の観点や方法、基準明示、資料整備	3.0	B			
	確かな学力	22 個に応じた学習指導	3.0	B			
		23 生徒主体のわかる授業の取組	2.8	B			
		24 言語活動を意識した授業展開	2.9	B			
	学習習慣	25 基礎基本の徹底と学力の定着	2.9	B			
		26 授業規律の確立	2.9	B			
		27 家庭学習の推進	2.6	B			
		28 授業規律に係る指導	3.1	B			
評価委員の意見		・習熟度別授業により、自分の力にあわせた学習ができるのはよい。 ・生徒の学習習慣が身に付くような取組を行って欲しい。					

生徒指導	指導体制	29 問題行動の予防・発見・対応・再発防止計画的実行	3.1	B	・小さなトラブルを見逃さないように情報の共有化を図り、組織的に対応する。 ・指導のガイドラインを明確に示し、継続的な指導を行う。 ・教職員全体での共通理解を図り日常的に協同的な指導体制による取り組みを行う。 ・定期的なアンケート・面談の実施や子ども理解ツールほっとの活用等を更に充実させ、いじめの未然防止、早期発見、解決に努める。 ・より組織的なネットパトロールの実施によりネットトラブルへの注意を強化し、未然防止、早期発見・解決に努める。	3.6	A
		30 共通理解、組織的対応	2.7	B			
		31 HR担任のへ指導負担の偏り	2.9	B			
		32 生徒指導部への指導負担の偏り	3.1	B			
		33 地域の教育機関や関係機関との連携	3.1	B			
	生徒理解	34 諸調査の実施、結果の活用	3.1	B			
		35 必要に応じた組織的な教育相談体制	2.9	B			
	生徒指導	36 服装、身だしなみ、言葉遣い、挨拶指導等の徹底	2.7	B			
		37 問題行動の早期発見・予防指導の実行	3.0	B			
	いじめ防止	38 問題行動対応、事後指導	3.2	B			
39 いじめの早期発見・予防対策		3.3	B				
40 いじめ関係生徒への対応、事後指導		3.3	B				
評価委員の意見		・生徒の普段の様子からいきいきと学校生活を送っているように感じる。 ・教育相談や個人面談等を充実させ、生徒理解を深めた指導を更に行って欲しい。					
進路指導	指導体制	41 3 力年を見通した各学年計画の作成	2.9	B	・「総合的な学習の時間」を活用したキャリア教育の充実を図り、実行性のある取組を行う。 ・積極的に外部機関を活用するとともにきめ細やかな進路指導を行う。 ・職業観育成のため 2 年次生生徒全員のインターンシップ体験を継続するとともに事後指導を充実させる。	3.2	B
		42 諸調査結果等、具体的な資料を用いた個に応じた指導	3.2	B			
		43 進路指導についての共通理解と協働体制	2.8	B			
		44 分掌と学年の連携	3.0	B			
	指導の実態	45 生徒の進路意識や目的意識を高める指導	2.9	B			
		46 補習・講習等希望実現への援助活動	3.1	B			
		47 進路希望実現への成果	3.0	B			
評価委員の意見		・成績上位の生徒達を更に伸ばし、上級学校を目指す生徒を増やして欲しい。 ・生徒のポテンシャルは高いので外部機関との連携を図り、進路指導の充実を更に図って欲しい。					
健康安全指導	健康・美化	48 計画的健康安全指導、健康調査・相談	3.2	B	・安全教室実施内容を工夫し、生徒の健康安全に関する意識を高め、自己管理能力育成する。 ・業務継続計画を定期的に見直し、災害時の基本的対応を周知徹底する。 ・日常的な職員室、準備室の整理整頓を行うことから学校全体の環境美化意識を高める。	3.5	A
		49 生徒の環境美化意識の高揚、清掃活動の指導	3.1	B			
		50 職場環境日常的整備、生徒美化意識向上への率先垂範	3.2	B			
	安全・防災	51 生徒の防火・防災意識指導や訓練	3.2	B			
		52 交通安全意識を高める指導	3.1	B			
		53 防災規定や危機管理マニュアルの周知	3.1	B			
		54 事故発生からの迅速な連絡・報告や事後処理	3.2	B			
		評価委員の意見		・事故を未然に防止できるように危機管理能力を更に高めて欲しい。			
特別活動 ・学級・学年	生徒会	55 積極的な参加と協力による生徒会活動	2.8	B	・生徒の自主的な活動が助長されるよう指導を工夫し、生徒一人ひとりが積極的に参加できる雰囲気醸成を図る。 ・町内公共施設の花壇造成等により、地域の一員としての自覚と広い視野を育み、地域社会に貢献する人材育成に努める。	3.5	A
	部活動	56 部活動の充実	3.0	B			
	学校行事	57 地域や学校の特色を活かした学校行事の推進	3.1	B			
		58 創意を生かし、調和に配慮した行事計画	3.1	B			
	学級・学年	59 年間計画にもとづいた適切な LHR 活動	3.1	B			
		60 学級経営の協働体制の構築	3.1	B			
		61 学年経営の協働体制の構築	3.0	B			
評価委員の意見		・花壇造成や町内イベントへの積極的な参加など地域と連携した活動を継続して欲しい。					